

教材用セルリーの栽培と生育調査

福村和則

緒言

指宿植物試験場では、1960年代よりセルリーおよびレタスの栽培を行って来た。セルリーは学生実習の教材として扱っている。セルリーの栽培適温は20℃位であるが、指宿の夏は高すぎ、冬は低すぎる。しかし、高温期（夏）に遮光により育苗地の温度を少しでも下げて育苗し、9月中～下旬に定植すると、12月中旬頃収穫可能な形状に生育する。

自然条件下では、1月下旬から2月上旬になると花芽形成が行われる。一方、この頃から葉柄にス入りが発生する。ス入りの早晩には、12月からの低温の影響が大きく、暖冬の年には少い。生育には環境条件が大きく関与するが、本報では気温との関係だけを検討した。

本報告は、学生実習で育苗、定植、管理を行い、1月下旬から2月上旬に収穫・調査を行った結果をまとめたものである。

材料と方法

品種はトールユタおよびトップセラーで、1950年より'77年までは前者、'78年以降では後者を供した。は種は6月上旬に床または箱まきし、仮植を7月中旬寒冷紗遮光ハウス内に特別実習で行った。本圃は水田裏作とし、定植は9月中～下旬に農場実習で行った。施肥料はN：50～60kg、 P_2O_5 ：30～35kg、 K_2O ：50～60kgを施用し、管理は学生実習で1回とそれ以外は慣行方法で行った。寒さの厳しい年には、畦間灌漑を1週間に1回程度行った。

実習による収穫・分解調査は、圃場の各学生実習配置内で、それぞれランダムに選定させた1株づつについて行った。毎年の学生数は20～33名であった。

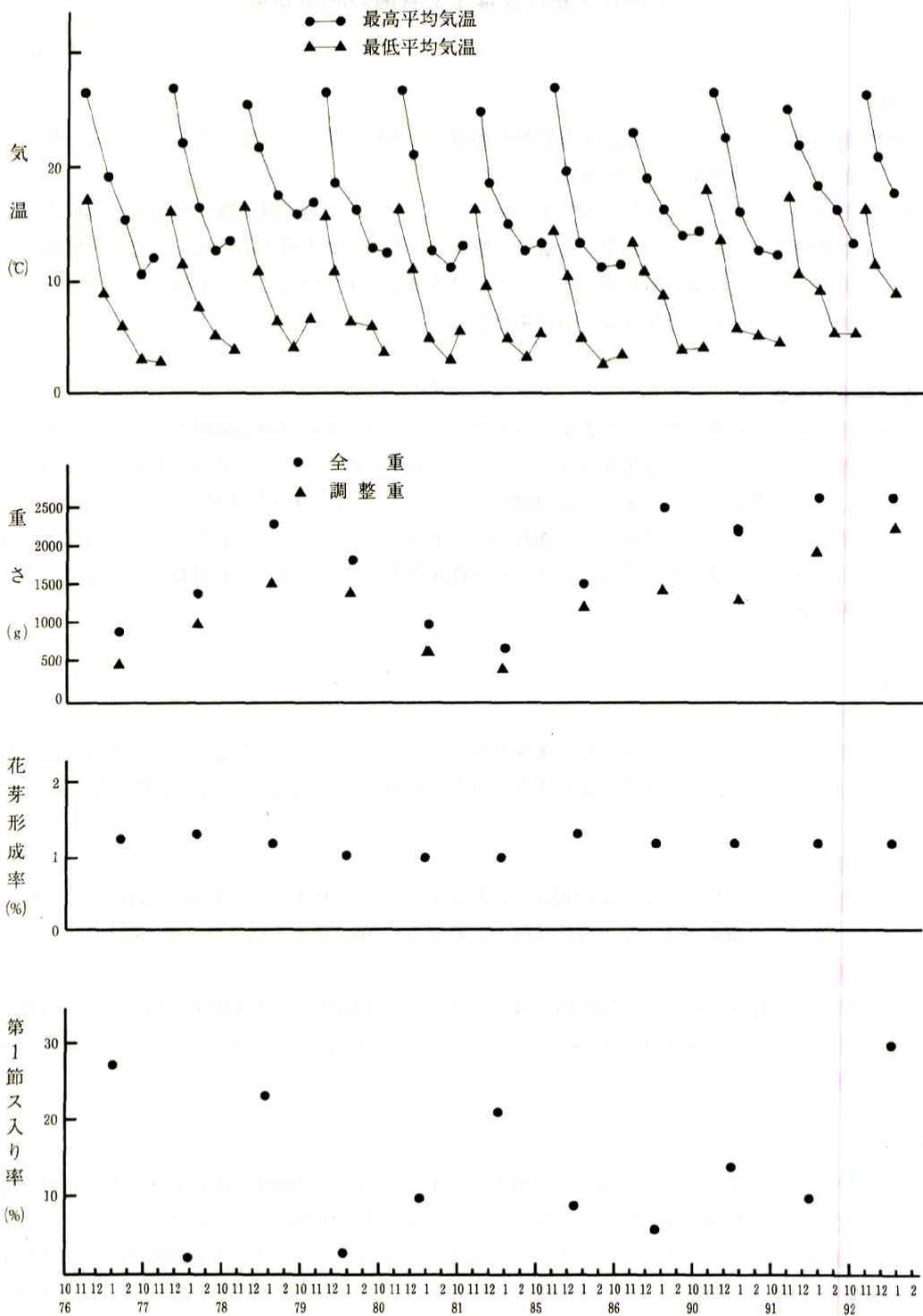
結果及び考察

収穫開始には、年次による早晩があったが、おおむね12月中旬頃より行った。1月下旬から2月上旬に実習により収穫、調査を行った結果を第1図に示した。

全株重が1.9kg～2.9kgであった1978年、'86年、'90年、'91年は暖冬の年であり、ス入りも少なかった。一方、株重の小さかった年にはス入りが大であった。花芽形成は約1%で、年次別の差は余りみられなかった。したがって、指宿水田での花芽形成は、1月の下旬頃に開始されるものと思われた。

要約

指宿植物試験場水田栽培のセルリーは、暖冬の年には1月下旬から2月上旬収穫で、ス入り少く調整株重1.2～1.7kgであった。花芽形成は1月下旬頃には行われていた。



第1図 セルリー栽培地の気温及び収穫時の形状